



## 2022年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年4月28日

上場会社名 株式会社三ツ知 上場取引所 東・名  
 コード番号 3439 URL http://www.mitsuchi.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中村 和志  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務部長 (氏名) 村越 康幸 (TEL) 0568-35-6350  
 四半期報告書提出予定日 2022年5月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2022年6月期第3四半期の連結業績(2021年7月1日~2022年3月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年6月期第3四半期	9,349	△4.7	395	80.2	497	35.8	383	42.4
2021年6月期第3四半期	9,812	△3.8	219	35.3	366	78.4	269	92.5

(注) 包括利益 2022年6月期第3四半期 368百万円( 12.2%) 2021年6月期第3四半期 328百万円( 111.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2022年6月期第3四半期	円 銭 75.75	円 銭 —
2021年6月期第3四半期	53.19	—

(注) 2022年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2022年6月期第3四半期	百万円 16,445	百万円 8,813	% 53.6
2021年6月期	17,009	8,630	50.7

(参考) 自己資本 2022年6月期第3四半期 8,813百万円 2021年6月期 8,630百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2021年6月期	円 銭 —	円 銭 6.00	円 銭 —	円 銭 49.00	円 銭 55.00
2022年6月期	—	27.00	—	—	—
2022年6月期(予想)	—	—	—	9.50	—

- (注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有  
 2. 2022年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2021年6月期及び2022年6月期の第2四半期末については、当該株式分割前の実績の配当金の額を記載しております。  
 3. 2022年6月期(予想)における期末については、株式分割後の金額を記載しております。  
 株式分割を行ったことにより、2022年6月期(予想)の合計については単純合計ができないため表示しておりません。なお、2022年6月期期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の2022年6月期の第2四半期末の配当金は13円50銭、2022年6月期(予想)の合計は23円00銭であります。

## 3. 2022年6月期の連結業績予想(2021年7月1日~2022年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,200	△11.5	395	△8.2	519	△16.0	394	△5.1	77.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 ー社 (社名) 、除外 ー社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2022年6月期3Q	5,304,040株	2021年6月期	5,304,040株
② 期末自己株式数	2022年6月期3Q	241,688株	2021年6月期	241,528株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2022年6月期3Q	5,062,437株	2021年6月期3Q	5,062,761株

(注) 2022年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、発行済株式数 (普通株式) を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」) をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	12
3. 補足情報	13
(1) 販売実績の状況	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、年度初頭は新型コロナウイルスのワクチン接種が進む中、急速な持ち直しが見られましたが、その後、欧米、東南アジアでの新型コロナウイルスの感染再拡大、北京五輪を見据えた中国でのゼロコロナ政策による厳しい行動制限、ウクライナ情勢の緊迫化等により世界経済の回復ペースは鈍化しました。国内でも新型コロナウイルスの感染再拡大や世界的な資源高の影響を受け、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主要得意先であります自動車部品業界におきましては、世界的に新車需要は依然として旺盛ながら、半導体の供給不足や感染拡大による部品不足が影響し、得意先での生産調整が続いております。

このような経営環境の中、当社グループでは、経営理念であります「絶えざる技術革新」と「ニーズを先取りした製品」の「スピードある提供」を通じ、お客様の「揺るぎない信頼のもとグローバル企業」を実現するために、中期経営計画の第1年目として、対処すべき課題の解消に取り組んでおります。

この結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は93億49百万円（前年同期比4.7%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は3億95百万円（前年同期比80.2%増）、経常利益は4億97百万円（前年同期比35.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、3億83百万円（前年同期比42.4%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等の適用により、売上高は15億42百万円、売上原価は15億67百万円それぞれ減少しております。営業利益は24百万円増加しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### ①日本

得意先からの受注は前年同期に比べ回復してきておりますが、半導体不足や新型コロナウイルス感染症の影響に加え、収益認識会計基準等の適用により、売上高は77億96百万円（前年同期比11.4%減）、営業利益は2億75百万円（前年同期比6.1%増）となりました。なお、収益認識会計基準の適用による影響額として、当第3四半期連結累計期間の売上高は15億45百万円減少し、営業利益は22百万円増加しております。

#### ②米国

新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きかった前年同期に比べ、得意先からの受注は回復してきており、売上高は7億52百万円（前年同期比12.6%増）となりました。利益面につきましては、経費削減に努めましたが、固定費を賄えず、65百万円の営業損失（前年同期は28百万円の営業損失）となりました。

#### ③タイ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で受注が減少した前年同期に比べ、受注は回復し、売上高は15億44百万円（前年同期比49.0%増）となりました。利益面につきましても、増収効果により、営業利益は1億52百万円（前年同期は1百万円の営業損失）となりました。

#### ④中国

得意先からの受注が増加し、売上高は5億15百万円（前年同期比38.1%増）となりました。利益面につきましても、増収効果により、営業利益は43百万円（前年同期は1百万円の営業損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### ①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ5億63百万円減少し、164億45百万円となりました。

資産の部では、流動資産が現金及び預金の減少、受取手形及び売掛金の減少等により、前連結会計年度末に比べ2億96百万円減少し、100億82百万円となりました。また、固定資産については、建物及び構築物の減少、機械装置及び運搬具の減少等により前連結会計年度末に比べ2億67百万円減少し、63億63百万円となりました。

負債の部では、流動負債が短期借入金の増加、賞与引当金の増加等により、前連結会計年度末に比べ1億98百万円増加し、48億88百万円となりました。また、固定負債については、長期借入金の減少、社債の減少等により前連結会計年度末に比べ9億45百万円減少し、27億43百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ1億10百万円減少し、38億96百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費5億53百万円、税金等調整前四半期純利益4億96百万円等による資金増があり、一方で棚卸資産の増加額3億92百万円、法人税等の支払額2億93百万円等による資金減により、5億10百万円の収入(前年同期比55.5%減)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、定期預金の払戻による収入3億9百万円等による資金増があり、一方で有形固定資産の取得による支出2億51百万円等による資金減により、38百万円の支出(前年同期比95.6%減)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、短期借入金の増加額5億円等による資金増があり、一方で長期借入金の返済による支出7億37百万円等による資金減により、5億72百万円の支出(前年同期比334.3%増)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、2022年1月31日に公表いたしました予想から修正をしております。

詳細につきましては、2022年4月28日公表の「2022年6月期の通期業績予想の修正及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、これらは当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,315,996	4,002,763
受取手形及び売掛金	2,567,867	2,307,738
電子記録債権	876,822	701,910
棚卸資産	2,414,288	2,770,123
その他	203,285	299,606
流動資産合計	10,378,260	10,082,142
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,586,923	1,511,146
機械装置及び運搬具(純額)	2,412,241	2,232,534
土地	1,549,243	1,549,850
リース資産(純額)	205,689	182,884
建設仮勘定	45,183	65,055
その他(純額)	142,631	134,664
有形固定資産合計	5,941,911	5,676,136
無形固定資産		
のれん	120,316	106,433
その他	106,231	88,282
無形固定資産合計	226,548	194,716
投資その他の資産		
投資有価証券	209,320	184,827
その他	253,597	308,076
貸倒引当金	△220	—
投資その他の資産合計	462,698	492,904
固定資産合計	6,631,158	6,363,756
資産合計	17,009,418	16,445,899

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,240,859	1,131,807
電子記録債務	868,505	767,953
短期借入金	500,000	1,000,000
1年内償還予定の社債	209,280	184,280
1年内返済予定の長期借入金	942,985	1,021,607
リース債務	42,699	32,067
未払法人税等	186,101	83,585
賞与引当金	6,723	100,947
役員賞与引当金	11,955	11,790
その他	680,757	554,539
流動負債合計	4,689,869	4,888,578
固定負債		
社債	373,960	189,680
長期借入金	2,860,957	2,144,262
リース債務	163,344	150,228
役員退職慰労引当金	17,923	18,212
退職給付に係る負債	72,568	66,262
その他	200,318	175,229
固定負債合計	3,689,071	2,743,874
負債合計	8,378,940	7,632,453
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	405,900	405,900
資本剰余金	604,430	604,430
利益剰余金	7,398,038	7,596,148
自己株式	△134,508	△134,736
株主資本合計	8,273,860	8,471,742
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	29,005	10,212
為替換算調整勘定	327,612	331,491
その他の包括利益累計額合計	356,617	341,703
純資産合計	8,630,478	8,813,446
負債純資産合計	17,009,418	16,445,899

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)
売上高	9,812,307	9,349,527
売上原価	8,253,409	7,542,474
売上総利益	1,558,898	1,807,052
販売費及び一般管理費	1,339,697	1,411,956
営業利益	219,200	395,096
営業外収益		
受取利息	4,184	4,682
受取配当金	1,334	2,595
為替差益	15,403	52,439
その他	165,022	74,711
営業外収益合計	185,945	134,429
営業外費用		
支払利息	23,194	21,407
その他	15,276	10,172
営業外費用合計	38,470	31,579
経常利益	366,674	497,946
特別損失		
投資有価証券評価損	—	1,498
特別損失合計	—	1,498
税金等調整前四半期純利益	366,674	496,447
法人税、住民税及び事業税	103,768	145,063
法人税等調整額	△6,377	△32,089
法人税等合計	97,391	112,973
四半期純利益	269,283	383,473
親会社株主に帰属する四半期純利益	269,283	383,473



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)
四半期純利益	269,283	383,473
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,972	△18,793
為替換算調整勘定	29,150	3,879
その他の包括利益合計	59,122	△14,914
四半期包括利益	328,405	368,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	328,405	368,559
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年7月1日 至2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年7月1日 至2022年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	366,674	496,447
減価償却費	545,044	553,470
のれん償却額	4,627	13,882
貸倒引当金の増減額(△は減少)	—	△220
賞与引当金の増減額(△は減少)	73,435	94,223
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	12,240	△165
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△18,991	△5,023
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2,757	289
固定資産売却損益(△は益)	△3,937	△1,538
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,498
受取利息及び受取配当金	△5,519	△7,277
受取保険金	—	△2,889
保険解約損益(△は益)	△4,971	△13,281
支払利息	23,194	21,407
売上債権の増減額(△は増加)	△1,173,714	437,952
棚卸資産の増減額(△は増加)	△4,923	△392,877
未収入金の増減額(△は増加)	44,543	21,270
仕入債務の増減額(△は減少)	1,156,998	△218,324
未払金の増減額(△は減少)	78,938	△36,583
未払費用の増減額(△は減少)	4,540	△4,945
その他	△6,145	△146,374
小計	1,094,793	810,941
利息及び配当金の受取額	5,519	7,277
保険金の受取額	—	2,889
利息の支払額	△24,385	△22,187
法人税等の支払額	△22,147	△293,834
法人税等の還付額	92,204	5,179
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,145,984	510,265

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2021年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2022年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△52,611	△103,337
定期預金の払戻による収入	124,043	309,000
有形固定資産の取得による支出	△369,282	△251,383
有形固定資産の売却による収入	46,220	3,852
投資有価証券の取得による支出	△1,822	△2,026
保険積立金の払戻による収入	11,258	28,107
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△594,868	—
その他	△20,284	△22,308
投資活動によるキャッシュ・フロー	△857,348	△38,096
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の増減額 (△は減少)	—	500,000
長期借入れによる収入	800,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△671,976	△737,775
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△35,222	△33,898
社債の償還による支出	△209,280	△209,280
自己株式の取得による支出	△156	△227
配当金の支払額	△15,148	△191,140
財務活動によるキャッシュ・フロー	△131,783	△572,322
現金及び現金同等物に係る換算差額	28,079	△10,728
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	184,931	△110,880
現金及び現金同等物の期首残高	3,519,393	4,006,996
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,704,324	3,896,115

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、従来、金型売上の一部について一定期間で収益を認識しておりましたが、一時点で収益を認識する方法に変更しております。

また、顧客からの有償受給取引について、従来は、原材料等の仕入価格を含む顧客からの対価の総額で収益を認識しておりましたが、原材料等の仕入価格を除いた純額で収益を認識することといたしました。

さらに、製造の過程で生じる作業くずの売却収入についても、従来は営業外収益として認識しておりましたが、売上高として計上する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき、会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,542,585千円、売上原価は1,567,496千円それぞれ減少しております。なお、営業利益は24,910千円増加しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益、期首利益剰余金に与える影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2021年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	日本	米国	タイ	中国	合計
売上高					
外部顧客への売上高	7,875,582	659,430	905,659	371,634	9,812,307
セグメント間の内部売上高又は振替高	921,428	8,825	130,935	1,794	1,062,984
計	8,797,011	668,256	1,036,595	373,429	10,875,292
セグメント利益又は損失(△)	259,788	△28,198	△1,642	△1,707	228,239

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	228,239
セグメント間取引消去	△9,039
四半期連結損益計算書の営業利益	219,200

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2022年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	日本	米国	タイ	中国	合計
売上高					
自動車用部品	5,321,393	740,343	1,183,918	510,709	7,756,364
非自動車用部品	1,509,015	10,234	73,912	—	1,593,162
顧客との契約から生じる収益	6,830,408	750,577	1,257,831	510,709	9,349,527
外部顧客への売上高	6,830,408	750,577	1,257,831	510,709	9,349,527
セグメント間の内部売上高又は振替高	965,899	1,699	286,680	4,823	1,259,103
計	7,796,308	752,276	1,544,511	515,533	10,608,630
セグメント利益又は損失(△)	275,547	△65,347	152,121	43,871	406,193

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	406,193
セグメント間取引消去	△11,097
四半期連結損益計算書の営業利益	395,096

3 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用しております。この結果、従来の方法によった場合と比べて、「日本」の売上高は1,545,131千円減少、セグメント利益は22,364千円増加しております。なお、他の報告セグメントの売上高及び利益又は損失(△)に対する影響は軽微であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 3. 補足情報

## (1) 販売実績の状況

当第3四半期連結累計期間における販売実績を用途品目別に示すと、次のとおりであります。

用途品目		前第3四半期 連結累計期間 (千円)	当第3四半期 連結累計期間 (千円)	前年同期比 (%)	前連結会計年度 (千円)
自動車用部品	シート用部品	3,579,656	3,336,838	△6.8	4,958,980
	ウインドウレギュレーター用部品	1,262,974	833,023	△34.0	1,889,802
	ロック用部品	397,652	329,563	△17.1	528,049
	エンジン用部品	1,559,548	1,424,725	△8.6	2,148,437
	足回り用部品	897,245	650,704	△27.5	1,200,158
	その他	1,096,510	1,181,508	7.8	1,498,646
	小計	8,793,587	7,756,364	△11.8	12,224,073
その他	1,018,719	1,593,162	56.4	1,559,326	
合計		9,812,307	9,349,527	△4.7	13,783,400

主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前第3四半期 連結累計期間		当第3四半期 連結累計期間		(参考) 前連結会計年度	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
シロキ工業株式会社	2,194,625	22.4	1,492,366	16.0	3,125,634	22.7

(注) 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用しております。  
この結果、従来の方によった場合と比べて、当第3四半期連結累計期間の販売高は1,542,585千円、シロキ工業株式会社の当第3四半期連結累計期間の販売高は1,008,074千円減少しております。